



「引っ掴む チャンスの神様」

佐野 知都子

甲府市在住／昭和27年度卒業
同窓会副会長を歴任
現在同窓会参与

エッセイの課題が「掴む」に決まったとき、ふと、高校生の頃を思い出した。

生物の最後の授業だった。授業半ばで、先生は、突然、黒板に丸と線で、走っている人の絵を描き出した。それも授業に関係があるのかと、私たちは、まじめにノートに写しだした。そのとき、先生は、「まだ書かなくていい。これは、なんだかわかるか」と、大まじめに質問された。そうなると、なんと答えていいのか分からなかった。

「禿げ頭のおじさん」

ふさけた男子の答えにどっと笑いがあこった。

「その通り。しかし、ただ禿げているのではないぞ」

と言わわれながら、丸い頭の前の部分に、三本髪の毛を描き加えられた。

「この三本が大事なんだ」

「毛が三本！」

また、笑いが起った。

先生は、苦笑いなされながら、

「笑うな。これは、『チャンスの神様』の絵だ。チャンスの神様には、前髪が三本しかない。そして、ものすごく速く走るんだ。向うから走ってくる神様を捕まえるには、その前髪を掴むのがいい。ところが、余りに速く走るので、あっと言う間に走り去って仕舞う。そこを逃がさずに、正面からとびついで、その前髪を三本揃えて掴む」

なんだ、そんなことか? 顔をした生徒たちをみながら、

「掴み損なったらどうする? 後ろから追いかけても、後ろ髪がいいから、すべて捕まえることができないんだ。だから、必死で前髪を掴むんだ。『掴む!』なんちゅうもんじゃない。『引っ掴む!』んだ。引っ掴んだら、逃げられないように自分の方へ引く強くなるんだ。力がいるぞ!」

先生は、受験を控えた生徒に、社会に巣立っていく者に、何を教えるよとなさったのか。さっきまで、ざわついていた教室がしんと静まった。

先生は、教室から降りてきて、

「チャンスを掴むには、力といったが、力とは何だ。見えない神様を見つけるには、何が必要だ? この答えは、自分で見つけなさい」

未だ、新卒の若い男性教師の言葉だったが、実感がこもっているように思われた。教室から出て行く先生に、お茶目な女生徒が「結婚のチャンスの神様を引っ掴みますように」と小声で言った。先生には聞こえたらしく、そのまま「おう」と手をあげて、廊下を歩いて行かれた。

あれから、何と六十年の年月が流れた。

先生から出された宿題「力とは何か」は、まだ、答えが出てこないでいる。何がチャンスなのか、チャンスだったのかも分からぬままに、忙しく人生が過ぎてしまったような気がする。しかし、もう、答えを出さなければならぬ「とき」がきている。あえて言うならば、「力」とは、「エネルギー」。その基は「知恵」と、「勇気」。そのためあらゆる勉強が必要なのではないかと。そして、逃がしたり、掴んだりしながら、今のが人生があることをめでたしとななくてはと思うの頃になった。

ところで、いちばんすごいチャンスを引っ掴んだのはあの先生だったと思つ。

先生の娘さんの話によると、八十六歳の先生の最後は、癌だったが、緩和ケアで苦しむことも少なかつたようだ。死くなる当日まで、話をしていたので、まだまだと思っていたのだが、夕方に呼吸が止まってしまった。あついう間だったようである。

熱心なクリスマスチャーチだった先生は、目前を走ってきた、天国ゆきのチャンスの神様の前髪三本、しっかりと「引っ掴んだ!」のに違いない。八十六年かかるて磨き上げられた先生の掴む「力」の見事さに、感服するばかりである。

「籐工芸に魅せられて」

日向 けさ江

甲州市塙山在住／昭和41年度卒業／藤工芸歴40年
白溝会NHK甲府放送局賞

日本バスケタリー展入選・県民文化祭入選



山梨高等学校を卒業して、早や51年! そして今年、古希を迎えた。

在学中は教師を目指し進学クラスで頑張っていましたが、父を癌で亡くし片親だった為に母に苦労をかけてはと思い進学を諦め山梨中央銀行へ就職しました。

そこで、今の夫と出会い、私はラッキーな道を歩む事になりました。

元々手芸や料理が大好きで、料理と編み物は教室に通い学びましたが、レース編み・リボンフラワー・パン粘土等は自己流で楽しんでおりました。

でも夫の転勤で新宿に住む事になり、以前より気になっていた籐工芸の教室が住まいの近くにあることを知り、通う事になりました。

そこで早稲田大学出身の男の先生に出会いました。

編む・巻く・組む・結ぶ・曲げると難しい技術を教える先生でしたが、学ぶならこの先生から師範を頂き山梨に帰りたいと思い、子供を幼稚園に送り出すと、お勤めのように教室に通い頑張った結果師範を習得することが出来ました。

5年間の東京生活を経え山梨に帰って来ますと直ぐに、山梨文化学園の方から声がかかり15年間講師をさせていただきました。

山交百貨店に教室を移し、今は自宅と両方で大勢の生徒さんと籐を楽しんでおります。

山梨では籐工芸の認知度が低く、美術館に出展してもなかなか認めてもらえず苦労が続きましたが、今は生徒も皆さんまで賞を取ることができるようになりました。

70歳（古希）になった今、年を感じる事なく充実した毎日を送っているのは、理解ある夫とステキな生徒さんに出会ったことに感謝しております。

今から何年続けられるか分かりませんが、生徒さんに技術を教えるのは勿論、教室に来て心癒されるような楽しいお稽古をしていきたいと思っています。

それには健康に気を付けて、今までと同じように東京へ勉強に行く事は統一で、私も自身も輝いていきたいと思っております。



学校だより・学校ニュース

「未来へ繋ぐたすき」 生徒会長 3年 杉岡 佑月



私が生徒会役員選挙を経て、生徒会長に就任してから早や一年が経過しようとしています。私にとってこの一年は、驚くほど早く過ぎ去っていきましたが、日々は同時に多くのことを学び、乗り越えてきた日々でもありました。

この一年の中で、最も強く印象に残っている生徒会行事は、やはり梨窓祭です。今年は50回目という大きな節目の年を迎え、これまで以上により良い学園祭にしようと、何ヶ月も前から、準備や打ち合わせを重ねてきました。思うようにことが進まず、涙する時もありましたが、生徒会本部役員や梨窓祭実行委員の協力や支えのおかげで、50回にふさわしい素晴らしい二日間になりました。今年度のテーマであった「Growing Glory ~咲き誇れ50年花へ」の通り、私たちらしい最高の花をそれぞれの心の中に咲かせることができたと思います。

梨窓祭に限らず、すべての生徒会行事において、多くの先生方、生徒の皆さんとの協力態勢がありました。

だからこそ山梨高校の伝統を守りつゝ、歴史と思い出に残る行事を行うことができたのだと痛感しています。

百年もの間、途絶えることなく受け継がれてきたたすきを、私もまた次期生徒会長に引き継いでいきます。百年の歴史の上に新たな一步を踏み出した今年、多くの学びと発見がありました。新生徒会長には、次の百年への歩みを力強く進め、さらに発展した学校づくりを期待しています。

最後になりますが、同窓会の皆様方には日頃から多大なるご支援とご協力をいただきしており、大変感謝しております。創立百周年行事も無事に終了した今、二万八千人を超える先輩方が築き上げて下さった伝統と歴史を受け継ぎ、今後も山梨高校が益々発展していくためにも、生徒一同尽力して参ります。今後とも山梨高生と山梨高校を温かく見守っていただけるよう、よろしくお願い申し上げます。

「カメラを通して心を揺り動かす作品を」

写真部 3年 林 洋太郎



私がカメラを触り始めた1年生の頃、目にした綺麗な景色・珍しい物があれば、構図も光も何も考えず即座に撮影。その頃は、それで満足でした。しかし、審査会で上位に入賞する優れた作品から感じる魅力に、胸を打たれて気付きました。「自分の写真は、人に何も与えていないのだ」と。それから顧問の先生や写真店の店員の方のアドバイスを頂きながら、「人の心を揺り動かす写真」を目指しました。

2年生になり、春季審査会で佳作を頂き、初めて自分の作品が評価されました。それから綺麗なもの・珍しいものに限らず、何気ない人々の日常生活を写真に残していくことを思いました。そして秋季審査会では、銅賞（県で7位）という栄誉を頂きました。恥ずかしがってカメラから逃げる従兄妹の写真で、普通ならあきらめるところを逆にそれを作品にするというところを評価されました。そして芸文祭、秋の人々の営みをそのまま作品に残そうと思い、空秋の下、稻刈りをする祖母を撮影しました。この作品で関東大会への出場が決まり、県外大会への出場を果たしました。一枚のフレームに綺麗に秋の人々の生業を表現していると評価を受け、優秀賞というさざなる栄誉を頂きました。関東大会へ出品された他の作品も素晴らしいものばかりで、とても充実した貴重な経験をさせていただきました。

そして今年は卒業学年、芸文祭に作品を出品しますので、新しい作品との出会いを楽しみに努力していきたいです。

同窓生の方でご活躍している方がおりましたら、事務局までお知らせ下さい。
ご紹介させていただきたいと思います。

山梨県立山梨高等学校 同窓会事務局 www.yamah.kai.ed.jp
〒405-0018 山梨県山梨市上神内川194 TEL0553-22-1621 / FAX0553-22-1623

